

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生物学	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	村主 節雄(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生態の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【実務経験有】村主 節雄:高等学校教員免許の資格を活かし、大学での指導経験をもとに、生命科学の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体内の生命現象について概説できる。</li> <li>2. 細胞の基本的構造とその機能を概説できる。</li> <li>3. ヒトの組織、器官について説明できる。</li> <li>4. ヒトの神経系および内分泌系について概要を説明できる。</li> <li>5. 転写と翻訳の過程を説明できる。</li> <li>6. 生命を構成する物質を挙げることができる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	生命	1) 生命とは何か      2) 生命の誕生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の特徴</li> <li>・生命をつくる物質の構成</li> <li>・タンパク質、核酸、糖質、脂質の役割</li> <li>・原核細胞、真核細胞</li> <li>・細胞小器官の構造と機能</li> <li>・ATPの特徴と役割</li> <li>・多細胞生物の成り立ちと特徴</li> <li>・上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織</li> <li>・消化器官、循環器官、呼吸器官、泌尿器官</li> <li>★理解度確認小テスト</li> <li>・配偶子形成</li> <li>・減数分裂の仕組みと意味</li> <li>・遺伝の法則(優勢の法則、分離の法則、独立の法則)</li> <li>・遺伝子と染色体の関係</li> <li>・DNAの化学的構造</li> <li>・三胚葉から形成される組織と器官</li> <li>・刺激の受容と反応</li> <li>・ヒトの感覚器の種類とその働き</li> <li>・中枢神経と末梢神経</li> <li>・交感神経と副交感神経の働き</li> <li>・ホメオスタシス</li> <li>・ヒトのホルモンの種類と働き</li> <li>・ヒトの免疫系の仕組み</li> <li>・生得的行動、習得的行動</li> <li>・地球環境の問題点</li> </ul>
2	組織と細胞	1) 細胞をつくる物質	
3		2) 生命の単位—細胞	
4		3) 細胞内の細胞小器官	
5		4) 細胞のさまざまな活動	
6		5) 細胞の一生	
7	生命の連続	6) 単細胞生物と多細胞生物	
8		7) ヒトの組織	
9		8) ヒトの器官	
10		1) 生殖の方法	
11	環境と動物の反応	2) 減数分裂	
12		3) 遺伝とその法則	
13		4) 生命をつくるしくみ	
14		5) 遺伝子をはたらかせるしくみ	
15		6) 発生して体をつくる	
		7) 動物の感覚器	
		8) 神経系による刺激の伝達	
		9) 中枢神経と末梢神経	
		10) 感覚器と効果器	
		11) 多細胞生物の細胞	
		12) ホルモンとその働き	
		13) 自律神経とホルモンの協調作用	
		14) 生体防御	
		15) 動物のさまざまな行動	
		16) ヒトの進化と未来	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本 「生物学」</li> <li>  全国歯科衛生士教育協議会監修</li> <li>  医歯薬出版株式会社</li> <li>・「歯科衛生士書き込み式学習ノート」</li> </ul>		1) 科目終了時の最終試験の評価	: 50%
		2) 確認テスト	: 30%
		3) 授業態度	: 10%
		4) 出席率	: 10%

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
人間関係論(前期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義・ <b>演習</b> ・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	副島 慶子(実務経験有)

**[授業の目的・ねらい]**

患者と向き合い、不安や緊張を安心へと導くコミュニケーションの基本知識と実践力を身につける。  
教育理念であるホスピタリティ(おもてなしの心)実現に向けた土台作りをする。

**【実務経験有】**副島 慶子:大学などでコミュニケーション講座の担当経験をもとに、学生に社会人として必要なコミュニケーションスキルを教授する。

**[授業修了時の達成課題(行動目標)]**

1. 自分を観察し、内省することができる。
2. 自分の直感やひらめきを信じ、行動に移すことができる。
3. 自分を含めたひとの感情を丁寧に扱い、共感を持って他者を受けいれることができる。
4. 非言語ツールやユーモア等がもたらす、「伝わりやすい」「つながる」表現を心がけるようになる。
5. グループにて、リーダーシップおよび建設的な関係を形成できる。

**[授業の内容]**

回	単元	内容	学習のポイント
1	序論	1)コミュニケーションとは？	
2	観察すること	1)見ているようで見ていない自分を知る	・未熟さを認めること
3		2)見る意識を持つ	・気づくこと
4		1)人の「違い」を理解する	・「あるがまま」の感覚
5	個人の尊重	2)他者を受けいれる	・正直さ・柔軟性
6		1)カラダ全体で聴く	・そこにいること
7	聴くこと	2)より多くの情報を聴く	・「心ある」聴きかた
8		3)自分を見つめる	・ひらめき
9		1)想いを「視覚化」する	・具体化すること
10	想像力	2)他者の状況や物事の流れを予測する	・わかろうとすること
11		3)これからを考える	・イメージの整理
12		1)カラダ全体を使った表現を意識する	・わかりやすい表現
13	身体表現	2)声に注目する	・コミットメント
14		3)非言語コミュニケーションを活用する	・「伝えよう」とする意識
15		4)リラックスした身体を知る	・息を合わすこと
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて ログを用いて予習する

**[使用テキスト]**

テキストなし

**[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)**

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1) 授業評価          | : 60% |
| 2) 科目終了時のレポートの評価 | : 40% |

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
人間関係論(後期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義・(演習)・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	副島 慶子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>患者と向き合い、不安や緊張を安心へと導くコミュニケーションの基本知識と実践力を身につける。                      教育理念であるホスピタリティ(おもてなしの心)実現に向けた土台作りをする。</p> <p>【実務経験有】副島 慶子:大学などでコミュニケーション講座の担当経験をもとに、学生に社会人として必要なコミュニケーションスキルを教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分を観察し、内省することができる。</li> <li>2. 自分の直感やひらめきを信じ、行動に移すことができる。</li> <li>3. 自分を含めたひとの感情を丁寧に扱い、共感を持って他者を受け入れることができる。</li> <li>4. 非言語ツールやユーモア等がもたらす、「伝わりやすい」「つながる」表現を心がけるようになる。</li> <li>5. グループにて、リーダーシップおよび建設的な関係を形成できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	信頼関係	1)心地良いボディタッチと声	・カラダに感謝する
2		2)信頼とは何か?	・状況を楽しむ・安心感
3		3)チームワーク	・相手を感じる・自分を信じる
4		4)抱える環境づくり	・リーダーシップ
5	そこにいること	1)自ら携わろうとする心	・プレゼンス
6		2)積極性	・レディネス
7	感情表現	1)感情のあれこれ	
8		2)自分の感情を表現する	・見える表現と見えない表現
9		3)他者の感情に寄り添う	・シェアリング
10	YES, AND	1)「NO, BUT」:否定・批判の感情プロセス	・待つこと
11		2)「YES, AND」:肯定・付加の感情プロセス	・何に「YES」か?
12		3)「YES, AND」の法則を活用する	・状況に「YES」するゆとり
13		4)「YES, BUT」:肯定・修正(昇華)の方法	・チア&プッシュ
14		5)ディスカッション	・対話≠会話
15	まとめ	1)ジャーニーの作成	・成長を感じること
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて ログを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
テキストなし		1) 授業評価 : 60% 2) 科目終了時のレポートの評価 : 40%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
ビジネス実務	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	浅井 ゆかり (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>厚生労働省(厚生白書)では、「医療はサービス業である」と記されている。このため、医療機関では患者満足度向上の一つとして患者接遇の意識付けが高くなっている。臨床実習を控えた今、社会人としての基本マナーに合わせて、医療人として患者さんの立場に立った接遇マナーを身につけると共に医療人として必要なルールを学ぶ。</p> <p><b>【実務経験有】</b>浅井 ゆかり: 歯科衛生士の資格を活かし、臨床経験をもとに歯科医療現場におけるビジネスマナーを学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 守秘義務についての法律を説明できる。</li> <li>2. 接遇の基本が説明できる。</li> <li>3. 実習事前訪問時の電話対応の注意点を説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	医療人として守るべき	1) 守秘義務 2) 個人情報保護法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢、表情</li> <li>・声、返事、挨拶</li> <li>・尊敬語、謙譲語、丁寧語</li>   <li>・クッション言葉</li> <li>・物の受け渡し</li> <li>・正確、迅速、丁寧</li> <li>・訪問時の電話</li> </ul>
2	患者接遇の基本	1) 接遇とは 2) 対応の基本	
3	言葉遣いの基本	1) 敬語	
4	好感をもたれる態度	1) 言葉がけ 2) 傾聴と共感	
5	電話対応の基本	1) 電話対応の3要素	
6	患者対応実習	1) グループワーク	
7	患者対応実習	1) グループワーク	
8	実技試験		
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてプリントを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・プリント		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	荒木 伸一(実務経験有)

**[授業の目的・ねらい]**

人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能に関する基本的知識を習得する。

【実務経験有】荒木 伸一:獣医師の資格を活かし、大学での指導経験をもとに人体の構造と機能に関する基礎知識を学生へ教授する。

**[授業修了時の達成課題(行動目標)]**

1. 体の部位を解剖学的な名称で表現できる。
2. 皮膚と粘膜の構造と機能を概説できる。
3. 筋組織の構造と機能を概説できる。
4. 体循環と肺循環について説明できる。
5. 神経系の概要を学び脳神経の構造を理解する。
6. 心臓の構造をスケッチし、各構造の名称を記入できる。
7. 粘膜の構造を理解する。

**[授業の内容]**

回	単 元	内 容	学習のポイント	
1	解剖学で学ぶこと	1)解剖学とは	・解剖学で学ぶこと ・人体の構造	
2	人体の構造	1)骨格系	・骨の形状、連結 ・上肢骨・下肢骨	
3				
4		2)筋と運動	・体の各部位の筋	・筋の形状と分類 ・頭部、頸部の筋 ・筋の起始と停止
5				
6		3)消化・吸収	・消化酵素	・消化のメカニズム ・消化管の基本構造 ・動脈系と静脈系
7				
8		4)循環		・心臓の位置と形態 ・体循環と肺循環 ・血液の成分 ・リンパ系の概要
9				
10		5)神経系		・神経系の分類 ・中枢神経、脳神経の構造 ・脳の血管と神経
11				
12		6)呼吸		・呼吸器、胸郭の構造
13		7)感覚		・感覚受容器の構造 ・外皮と粘膜の構造
14		8)排泄		・視覚器の構造 ・排泄とは
15	9)内分泌、生殖器	・下垂体の構造	・腎臓・生殖器の構造	
	まとめ	※体温・内分泌は生理学	事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する	

**[使用テキスト]**

・最新歯科衛生士教本  
「人体の構造と機能1  
解剖学・組織発生学・生理学」  
全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社

**[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)**

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1) 科目終了時の最終試験の評価 | : 90% |
| 2) 出席率           | : 10% |

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生化学	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	石井 弘之 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]                      生命現象を分子レベルの化学反応として理解し、生命体に必要な栄養素の摂取と働きから健康の維持と増進を考える態度を養う。</p> <p><b>【実務経験有】</b>石井 弘之: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに生化学の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体構成成分の種類が列挙できる。</li> <li>2. 酸素の運搬と二酸化炭素の排出について、エネルギーの代謝について説明できる。</li> <li>3. 歯の無機成分、有機成分を列挙できる。</li> <li>4. 骨と歯の石灰化の仕組みと、脱灰と再石灰化を相互に説明できる。</li> <li>5. プラークの生化学を学び、歯周疾患と生体防御反応の関わりを専門用語を使って説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	栄養と代謝	1) 生化学と栄養学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞の役割</li> <li>・細胞の構造</li> <li>・緩衝作用</li> <li>・糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラル</li> <li>・消化酵素</li> <li>・代謝とエネルギーの生成</li> <li>・代謝、分解</li> <li>・タンパク質の合成</li> <li>・ホメオスタシスとは</li> <li>・血糖値</li> <li>・ホルモンと自律神経</li> <li>・結合組織を構成する細胞</li> <li>歯の組成、無機成分、有機成分</li> <li>・血清中のカルシウムとリン酸濃度</li> <li>・石灰化の仕組み</li> <li>・歯の脱灰と石灰化</li> <li>・血清カルシウム調整ホルモン</li> <li>・プラークによる齲蝕発症機構</li> <li>・代用甘味料</li> <li>・プラークによる歯周疾患発症機構</li> <li>・リポ多糖</li> </ul>
2	生命活動の概要	2) 歯科衛生士が生化学・栄養学を学ぶ意義 1) 生体構成要素	
3		・生体における水 ・構造と種類	
4		2) 生体における化学反応 3) 糖質と脂質の代謝 4) タンパク質とアミノ酸の代謝	
5		・消化と吸収	
6		5) 生体における恒常性の維持	
7			
8	歯と口の生化学	1) 歯と歯周組織の生化学	
9			
10		2) 硬組織の生化学	
11		・骨の生成と吸収	
12		3) 唾液の生化学	
13		・唾液の組成と機能	
14		4) プラークの生化学	
14		・プラークの生物活性	
15	まとめ		事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本                              [人体の構造と機能2 栄養と代謝]                              全国歯科衛生士教育協議会 監修                              医歯薬出版株式会社</li> <li>・歯科衛生士書き込み式学習ノート</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	中井 恵 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能に関する基本的知識を習得する。  <b>【実務経験有】</b>中井 恵: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに生理学の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞の基本的機能の知識を学び理解する。</li> <li>2. 心臓の機能、心筋の特徴、刺激伝導系を概説できる。</li> <li>3. 血圧と心電図についてわかりやすく説明できる。</li> <li>4. ニューロンとは何か言える。</li> <li>5. 特殊感覚、体性感覚、内臓感覚と感覚器について概説できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	生理学で学ぶこと	1) 生理学とは	・なぜ生理学・口腔生理学を学ぶのか
2		1) 筋と運動	・収縮機序と収縮力学 ・運動 ・骨格筋・心筋・平滑筋 ・運動ニューロン・反射・随意運動 ・伸張反射と膝蓋腱反射 ・筋紡錘、筋電図 ★小テスト
3		2) 消化と吸収	・口腔での消化 ・小腸の機能 ・大腸の機能
4		3) 循環	・血液の機能 ・血液型 ・心臓の活動電位と心電図
5		4) 神経	・神経系の基本的機能 ・活動電位 ・シナプス ・中枢神経、末梢神経、自律神経の機能 ・自律神経の作用 ・伝導路
6		5) 呼吸	・排気量と換気量 ・誤嚥 ・呼吸の調節 ・過換気症候群
7		6) 感覚	・活動電位 ・味覚と臭覚
8		7) 排泄	・尿の生成 ・排尿の仕組み
		8) 体温	・産生、放散、調節、変動
		9) 内分泌	・体温の調節、発熱・発汗 ・甲状腺、上皮小体、膵臓、副腎、下垂体、性腺 ・ホルモンの働き
8	10) 生殖		
	まとめ		事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
組織発生学(人体)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
4/8回	1単位(15時間)	必須	荒木 伸一(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人体の成り立ちを理解するために、体の組織・発生に関する基本知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】荒木 伸一:獣医師の資格を活かし、大学での指導経験をもとに体の組織発・発生に関する基礎知識を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞の細胞膜、核、細胞小器官を図で表し名称を記入することができる。</li> <li>2. 細胞の基本的生理機能を概説できる。</li> <li>3. 受精と着床、胚葉の時期と場所について説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	組織と発生	1) 細胞と組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞の基本構造と機能</li> <li>・細胞内小器官</li> <li>・ミトコンドリア</li> <li>・細胞の一生</li> </ul>
2		2) 発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の分類と特徴</li> <li>・染色体・DNA</li> <li>・精子と卵子</li> <li>・受精と着床</li> </ul>
3			<ul style="list-style-type: none"> <li>・胚葉の形成</li> <li>・外胚葉・内胚葉・中胚葉</li> </ul>
4		まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胎児の成長と発育</li> <li>・骨の発生と成長</li> <li>・膜内骨化・軟骨内骨化</li> </ul>
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本</li> <li>「人体の構造と機能1</li> <li>解剖学・組織発生学・生理学」</li> <li>全国歯科衛生士教育協議会 監修</li> <li>医歯薬出版株式会社</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	



## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
組織発生学(口腔)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
4/8回	1単位(15時間)	必 須	池田 優佳 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を身に付ける。</p> <p>【実務経験有】池田 優佳: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに体の組織・発生に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 顔面と口腔のおよび歯の発生の概要が説明できる。</li> <li>2. 歯と歯周組織の組織学的構造と機能について概説できる。</li> <li>3. 歯の硬組織の物理的・化学的性状について説明できる。</li> </ol>			
[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	顔面と口腔の発生		<ul style="list-style-type: none"> <li>・突起</li> <li>・鰓弓の形成</li> <li>・顔面と口腔の形成</li> <li>・口蓋と鼻腔の形成</li> <li>・舌の発生</li> </ul>
2	歯と歯周組織の発生		<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯の発生</li> <li>・先行歯の発生(歯の一生)</li> <li>・ヘルトウィツヒの上皮蛸</li> <li>・マラッセの上皮遺残</li> <li>・萌出、脱落、交換</li> </ul>
3	歯および歯周組織の構造と機能		<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔組織</li> <li>・エナメル質の構造</li> <li>・エナメル質に存在する構造物</li> <li>・象牙質・歯髄複合体</li> <li>・セメント質・歯根膜・歯槽骨の構造</li> <li>・歯肉の構造</li> <li>・歯周組織の生理</li> </ul>
4	まとめ		
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本</li> <li>「歯・口腔の構造と機能</li> <li>口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」</li> <li>全国歯科衛生士教育協議会 監修</li> <li>医歯薬出版株式会社</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態		
口腔解剖学(前期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義・演習・実習		
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者		
15回	2単位 ( 30 時間)	必 須	池田 優佳 (実務経験有)		
<p>[ 授 業 の 目 的 ・ ね ら い ]</p> <p>口腔内の構造や歯及び歯周組織を解剖学的見地から学びその知識を身につける。</p> <p>【実務経験有】池田 優佳: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに口腔周囲の構造、機能に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[ 授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標) ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 固有口腔と口腔前庭の違いを述べるができる。</li> <li>2. 頭頸部の筋の構成、咀嚼筋の名称を列挙できる。</li> <li>3. 脳頭蓋を構成する骨と顔面頭蓋を構成する骨の名称、個数、部位が言える。</li> <li>4. 下顎の運動について概説できる。</li> <li>5. 三叉神経、顔面神経の走行を概説できる。</li> <li>6. 口腔粘膜の分類と特徴について説明できる。</li> </ol>					
[ 授 業 の 内 容 ]					
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト		
1	顎・口腔の構造と機能	1) 口腔とは	・口腔前庭と固有口腔		
2	口腔付近の解剖学	2) 口腔を構成する骨	・頭蓋骨 ・上顎骨 ・下顎骨		
3		3) 頭頸部の筋と作用	・咀嚼筋 ・頸部の筋		
4				4) 顎関節	
5				5) 口腔付近に分布する脈管系	
6		6) 神経	・動脈・静脈系・リンパ節		
7				・脳神経	
8	・三叉神経 ・顔面神経				
9	歯および歯周組織の構造と機能	1) 永久歯の形態的特長	・歯の形態 ・歯の種類、歯式、名称、用語 ・形成時期と萌出時期 ・根管の形態		
10			2) 乳歯の形態的特長	・歯種の鑑別 ・唇面 ・舌面 ・隣接面(遠心・近心) ・歯根 ・歯髓腔	
11	歯の形態				
12					
13					
14					
15	まとめ				
			事前学習		
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する		
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本</li> <li>「歯・口腔の構造と機能</li> <li>口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」</li> <li>全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社</li> <li>・歯科衛生士書き込み式学習ノート」</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>			

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
口腔解剖学(後期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習	
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者	
15回	1単位(30時間)	必須	池田 優佳(実務経験有)	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>口腔内の構造や歯及び歯周組織を解剖学的見地から学びその知識を身につける。</p> <p>【実務経験有】池田 優佳: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに口腔周囲の構造、機能に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯冠と歯根の形態の特徴を説明できる。</li> <li>2. 歯の名称及び方向用語を使って部位を表すことができる。</li> <li>3. 永久歯と乳歯の違いを説明できる。</li> <li>4. 口腔組織の構造を説明できる。</li> <li>5. 歯列と咬合について理解し咬合彎曲について概説できる。</li> </ol>				
[ 授 業 の 内 容 ]				
回	単 元	内 容	学習のポイント	
1	歯の形態	1)特色ある歯の形態	・歯冠・歯根の異常	
2				
3				
4		2)歯列と咬合	・咬合彎曲	
5				
6		1)形態学的特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上顎中切歯</li> <li>・上顎側切歯</li> <li>・上顎犬歯</li> <li>・下顎中切歯</li> <li>・下顎側切歯</li> <li>・下顎犬歯</li> <li>・上顎第一小白歯</li> <li>・上顎第二小白歯</li> <li>・下顎第一小白歯</li> <li>・下顎第二小白歯</li> <li>・上顎第一大臼歯</li> <li>・上顎第二大臼歯</li> <li>・下顎第一大臼歯</li> <li>・下顎第二大臼歯</li> </ul>	★歯型彫刻実習
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15	まとめ			
			事前学習	
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本</li> <li>「歯・口腔の構造と機能</li> <li>口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」</li> <li>全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社</li> <li>・歯科衛生士書き込み式学習ノート」</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 50%</li> <li>2) 提出物 : 40%</li> <li>3) 出席率 : 10%</li> </ol>		

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔生理学	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	吉田 淳一 (実務経験有)

**[授業の目的・ねらい]**

口腔・顎・顔面などの諸器官の機能を健全に維持するため、また機能障害を予防治療するための知識を身につける。

**【実務経験有】**吉田 淳一: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに口腔生理に関する基礎知識を学生に教授する。

**[授業修了時の達成課題(行動目標)]**

1. 歯の構造と組織、および歯周組織についての知識を身につけ患者に概要が説明できる。
2. 咀嚼筋の種類と各咀嚼筋の位置と各筋の関与する下顎運動が説明できる。
3. 嚥下運動の全過程と異常嚥下と不正咬合についての知識を身につけ概説できる。
4. 歯の感覚と口腔内粘膜の感覚の種類が列挙できる。
5. 味覚についての基礎知識を学び、味覚異常と検査方法についてを概説できる。
6. 唾液の働きについて患者に説明することができる。

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯と口腔の感覚	1) 歯の感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圧覚</li> <li>・歯髄の感覚</li> <li>・関連痛</li> </ul>
2	味覚と臭覚	1) 味覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・味覚の役割</li> <li>・味蕾(未覚受容器)</li> <li>・味覚神経、味覚障害と味盲</li> </ul>
3	咬合と咀嚼・吸啜	2) 嗅覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嗅覚の役割</li> </ul>
4		1) 下顎位	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下顎安静位、咬頭嵌合位、中心位、中心咬合位</li> </ul>
5		2) 下顎の運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下顎運動、下顎限界運動、咀嚼筋</li> <li>・下顎の運動に関与する筋</li> </ul>
6		3) 顎反射	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉口反射、開口反射</li> </ul>
7		4) 摂食行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・咀嚼</li> </ul>
8		5) 咀嚼能力	
9		6) 吸啜	<ul style="list-style-type: none"> <li>★理解度確認小テスト</li> </ul>
10	嚥下と嘔吐	1) 嚥下と嘔吐にかかわる構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・咽頭、鼻腔・口腔・喉頭</li> <li>・上咽頭、中咽頭、下咽頭</li> </ul>
11		2) 嚥下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下の概要</li> <li>・嚥下に関与する筋群</li> <li>・嚥下の過程、神経機構</li> </ul>
12		3) 嘔吐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘔吐の機序と神経機構</li> </ul>
13	発声	1) 発声機構の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構音</li> <li>・声帯</li> </ul>
14		2) 声の生成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能性構音障害、器質的構音障害、</li> <li>運動障害性構音障害</li> </ul>
15		3) 言語音の形成	
16		4) 歯と口腔の病態と発音	
17	唾液	1) 唾液腺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大唾液腺、小唾液腺</li> </ul>
18		2) 唾液の分泌機構	
19		3) 唾液の性状・成分と機能	
20		4) 唾液と疾患	

事前学習

次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する

**[使用テキスト]**

・最新歯科衛生士教本  
「歯・口腔の構造と機能  
口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」  
全国歯科衛生士教育協議会 監修  
医歯薬出版株式会社

**[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)**

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1) 科目終了時の最終試験の評価 | : 90% |
| 2) 出席率           | : 10% |

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	荒木 伸一 (実務経験有)

**[ 授業の目的・ねらい ]**

口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために疾病の概念、病気と病態に関する基本的知識を習得する。

**【実務経験有】**荒木 伸一: 獣医師の資格を活かし、大学での指導経験をもとに疾病の発生、病理学的特徴に関する基礎知識を学生へ教授する。

**[ 授業終了時の達成課題(行動目標) ]**

1. 病因の内因と外因について説明できる。
2. 退行性病変である代謝障害の変性・萎縮・壊死についての基礎知識を身につけ、それぞれ概説できる。
3. 進行性病変である増殖と修復についての基礎知識を身につけ、肥大、増生、化生、再生について説明できる。
4. 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の相違がポイントを絞って説明できる。
5. 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。

**[ 授業の内容 ]**

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	病理学序論	1) 疾病の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恒常性、病態</li> <li>・完全治癒、不完全治癒</li> <li>・栄養障害、物理的因子、化学的因子、生物学的因子</li> <li>・染色体、先天異常、遺伝病</li> </ul>
	病因論	2) 内因・外因	
2	遺伝性疾患と奇形	1) 遺伝性疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器官形成期</li> <li>・重複奇形、単体奇形</li> <li>・体液、体循環、肺循環</li> <li>・虚血、充血、うっ血、出血、浮腫、ショック</li> <li>・血栓症、塞栓症、器質化、動脈硬化症</li> </ul>
		2) 奇形	
3	循環障害	1) 循環血液量の異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞障害因子</li> <li>・退行性病変、進行性病変</li> <li>・タンパク質変性、硝子変性、脂肪変性</li> <li>・萎縮、アポトーシス</li> <li>・肥大、増生、化生</li> <li>・不安定細胞、安定細胞、永久細胞</li> <li>・肉芽組織</li> <li>・一次治癒、二次治癒、器質化</li> <li>・5大徴候、免疫反応、組織学的変化</li> <li>・ケミカルメディエーター、炎症に関与する細胞</li> <li>・炎症の分類、急性、慢性</li> <li>・病原微生物、菌交代現象、日和見感染</li> <li>・抗原抗体反応、免疫グロブリン</li> <li>・一次応答、二次応答</li> <li>・アレルギーの分類(I～IV)</li> <li>・自己免疫疾患、免疫不全症</li> <li>・発がん因子、がん遺伝子</li> </ul>
		2) 閉塞性の循環障害	
4	代謝障害と退行性病変	1) 細胞障害	<p style="text-align: center;">事前学習</p> 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
		2) 変性と物質代謝障害	
5	増殖と修復	1) 再生と修復	
		2) 創傷治癒	
6	炎症	1) 炎症とは	
		2) 炎症の分類	
		3) 感染症	
7	免疫応答異常	1) 免疫応答	
		2) アレルギー	
8	腫瘍	3) 腫瘍の発生	
		4) 腫瘍の種類と性質	

**[使用テキスト]**

- ・最新歯科衛生教本
- 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1
- 病理学・口腔病理学」
- 歯科衛生士教育協議会 編集
- 医歯薬出版株式会社

**[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)**

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1) 科目終了時の最終試験の評価 | : 90% |
| 2) 出席率           | : 10% |

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔病理学	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	大河原 敏博(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために疾病の概念、病気と病態に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】大河原 敏博: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに口腔内の疾病の発生、病理学的特徴に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯の発育障害の種類と病態を相互で説明することができる。</li> <li>2. 象牙質・セメント質の増生と歯根膜の石灰化についての知識を身につけ患者に説明できる。</li> <li>3. う蝕の病因と病態を図を使用して患者に説明できる。</li> <li>4. 歯髄・歯周組織の病変についての基礎知識を身につけ、病名と症状を専門用語で説明できる。</li> <li>5. 口腔粘膜創と抜歯創の治癒について説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯の発育異常 歯の損傷と着色・付着物	1) 大きさ・歯数・形・構造の異常 2) 物理的損傷、歯の着色、プラーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・局所的な原因と全身的な原因</li> <li>・色の異常(ポルフィリン・黄疸・テトラサイクリン)</li> </ul>
2	う蝕	1) う蝕の疫学、組織学的分類 2) う蝕の組織学的変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔細菌、多因子性疾患</li> <li>・発生機序</li> <li>・エナメル質う蝕、象牙質う蝕、セメント質う蝕</li> </ul>
3	象牙質・歯髄複合体の病態	1) 歯髄炎 2) 象牙質の増生、象牙質知覚過敏症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病因と発生機序</li> <li>・急性歯髄炎、慢性歯髄炎</li> <li>・第二象牙質、第三象牙質</li> </ul>
4	歯周組織の病態	1) 病因と発生機序 2) 辺縁部歯周組織の病変	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根尖部歯周組織の病変(炎症)</li> <li>・歯肉炎、辺縁性歯周炎、急性壊死性潰瘍性歯肉炎、薬物性歯肉増殖症、若年性歯周炎、咬合性外傷</li> </ul>
5	口腔粘膜の病変 口腔領域の嚢胞と腫瘍	1) 口腔粘膜の特徴・病変 2) 口腔領域の嚢胞と腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルペスウイルス感染、手足口病</li> <li>・口腔カンジダ症、扁平苔癬</li> <li>・歯原性嚢胞(歯根嚢胞・原始性嚢胞・含菌性嚢胞)</li> <li>・非歯原性嚢胞(粘液嚢胞・術後性上顎嚢胞)</li> </ul>
6	口腔癌 顎骨の病変	1) 前癌病変 2) 顎骨骨髓炎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白板症、紅板症</li> <li>・扁平上皮癌</li> <li>・ビスフォスフォネート関連顎骨壊死</li> </ul>
7	唾液腺の病変	1) 唾液腺に発生する病変 2) 良性腫瘍と悪性腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流行性耳下腺炎、シェーグレン症候群</li> <li>・多形腺腫、ワルシ腫瘍、粘表皮癌</li> </ul>
8	口腔領域の奇形 口腔組織の加齢変化	1) 口腔顎顔面の発生 2) 口腔組織の加齢変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口唇裂、口蓋裂、唇顎口蓋裂、顔面披裂</li> <li>・エナメル質の変化、象牙質の変化、セメント質の変化</li> </ul>
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準] (試験等の評価方法)	
最新歯科衛生教本 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 歯科衛生士教育協議会 編集 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
薬理学	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	芳地 一 (実務経験有)

**[授業の目的・ねらい]**

薬物の性質、薬理作用、作用機序及び副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。

**【実務経験有】**芳地 一: 薬剤師の資格を活かし、大学病院の業務経験をもとに薬剤に関する基礎知識を学生に教授する。

**[授業修了時の達成課題(行動目標)]**

1. 薬理作用(薬物の作用)について基本的形式と分類を説明できる。
2. 薬物の作用機序について説明できる。
3. 協力作用、拮抗作用、相互作用について例を挙げながら説明することができる。
4. 中枢神経・末梢神経系に作用する薬物の種類を列挙できる。
5. 中枢神経系、末梢神経系に作用する薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

**[授業の内容]**

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	総論	1)薬物の定義と分類	・日本薬局方及び局方薬、毒薬、劇薬、麻薬、医薬部外品 ・薬物の用量と作用、生体の感受性・プラセボ効果含む
2		2)薬物の作用・副作用	・薬物の副作用、有害作用 ・協力作用、拮抗作用、相互作用、蓄積、耐性、依存
3	中枢神経と薬	1)中枢神経とは 2)中枢神経に作用する薬物	・全身麻酔薬、催眠薬、向精神薬、抗てんかん薬、鎮痛剤、中枢神経興奮薬
4	末梢神経と薬	1)末梢神経に作用する薬物 2)局所麻酔薬	・自律神経系作用薬 ・局所麻酔薬
5	循環・呼吸器系と薬	1)循環系に作用する薬物 2)呼吸器系に作用する薬物	・適用方法、血中濃度推移 ★理解度確認小テスト
6	血液と薬	1)血液凝固 2)血液に関連する薬物	・血液タンパク質凝固薬、血液凝固促進薬、血管収縮薬、毛細血管強化薬、抗プラスミン薬
7	炎症と薬	1)炎症とは 2)炎症に作用する薬物	・ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、抗ヒスタミン薬
8	ビタミン・ホルモンと薬	1)ビタミン・ホルモン 2)代謝性疾患治療薬	★理解度確認小テスト
9	感染症と薬	1)抗感染症薬 2)消毒薬	・抗菌薬 ・消毒薬
10	悪性腫瘍と薬	1)悪性腫瘍とは 2)抗悪性腫瘍薬	
11	免疫と薬	1)免疫系に作用する薬物	
12	漢方医学と薬	1)漢方薬とは	★理解度確認小テスト
12	歯・歯髄疾患と薬	1)う蝕の予防に用いる薬物 2)歯・歯髄疾患の治療に用いる薬物	・齲蝕予防に使用する薬剤 ・歯内療法に使用する薬剤
13	歯周疾患と薬	1)歯周治療に用いる薬物 2)口臭治療に用いる薬物	
14	歯周疾患に使用する薬	1)歯周疾患とは 2)歯周疾患治療法と使用薬剤	・歯周疾患に使用する薬剤
15	顎・口腔粘膜疾患と薬 服薬指導	1)炎症性・口腔粘膜疾患・顎関節症・口腔乾燥症・神経疾患に用いる薬物 1)一般的・対象者別の服薬指導	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する

**[使用テキスト]**

・最新歯科衛生士教本  
「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3  
薬理学第2版」  
全国歯科衛生士教育協議会監修  
医歯薬出版株式会社

**[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)**

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1) 科目終了時の最終試験の評価 | : 90% |
| 2) 出席率           | : 10% |

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
微生物学	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	岡部 昭延 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】岡部 昭延: 医師の資格を活かし、大学での講義経験をもとに微生物学の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細菌とウイルス、その他の微生物の形態的特徴と基本性状について概説できる。</li> <li>2. 細菌の培養法、顕微鏡観察法の知識を身につけることができる。</li> <li>3. 感染症の種類と、感染源・感染経路について説明できる。</li> <li>4. 自然免疫と獲得免疫についてそれぞれ説明できる。</li> <li>5. 歯周病原菌を列挙できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	疾病と微生物 微生物の病原性	1) 疾病と微生物、免疫学 2) 感染と感染症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病原微生物・ウイルスの発見の歴史</li> <li>・細菌(形態・構造・代謝・増進)</li> <li>・ウイルス(構造・増殖)</li> </ul>
2		1) 微生物の位置づけ 2) 細菌・ウイルス	
3	宿主防御機構と免疫	3) 歯科に関連するウイルスとウイルス感染症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルペスウイルス</li> <li>・口腔カンジダ症の症状</li> <li>・自然免疫、粘膜免疫・全身免疫</li> <li>・免疫機構の発現と調節</li> <li>・能動免疫と受動免疫・自己免疫疾患</li> <li>・不活化ワクチン、トキシソイド</li> <li>・抗原抗体反応、補体、遅延型過敏症</li> <li>・I型アレルギー(アナフィラキシー)、ツベルクリン</li> </ul>
4		4) 真菌・原虫	
5		1) 宿主防御機構	
6		2) 免疫機構	
7		3) 免疫の種類 4) ワクチン	
8		5) 液性免疫と細胞性免疫 6) アレルギー(過敏症)	
9	化学療法	1) 化学療法と化学療法薬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞壁合成阻害薬</li> <li>・マクロライド系抗菌薬、テトラサイクリン系抗菌薬</li> <li>・抗ヘルペス薬、抗インフルエンザウイルス薬</li> <li>・口腔内細菌叢の成り立ちと遷移</li> <li>・プラークの形成(粘着性多糖体の合成)</li> <li>・齲蝕病原性細菌</li> <li>・慢性歯周炎、侵襲性歯周炎</li> <li>・ウイルス性唾液腺感染症、誤嚥性肺炎</li> </ul>
10		2) 主な化学療法薬の種類と特徴 3) 抗真菌薬 4) 抗ウイルス薬	
11	口腔微生物学	1) 口腔細菌叢	<p style="text-align: center;">事前学習</p> 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
12		2) バイオフィルムとしてのプラーク	
13	口腔感染症	1) 齲蝕	
14		2) 歯内感染症 3) 歯周病 4) その他の感染症	
15	院内感染対策と 滅菌・消毒	1) 口腔外感染症と院内感染対策 2) 滅菌、消毒	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社		1) 期末試験の評価(中間試験を含む) : 90% 2) 出席率 : 10%	



## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔衛生学(前期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	荻野 芳(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯、口腔の健康にかかわる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯、口腔の健康と予防に関する基本的知識を身に付ける。</p> <p>【実務経験有】荻野 芳: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに歯、口腔の健康と予防に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯、口腔の健康を保持・増進する手段について概説できる。</li> <li>2. 唾液腺の種類を何も見ずに列挙できる。</li> <li>3. 歯磨剤、洗口剤の種類と組成を学び、小テストで80%以上正解する。</li> <li>4. 齲蝕発生のメカニズムについて理解し、小テストで80%以上正解する。</li> <li>5. フッ化物応用による齲蝕予防法を何も見ずに列挙できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	概論	1) 口腔衛生学の意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔衛生学を理解する</li> <li>・口腔と全身の健康との関係を理解する</li> <li>・第一次、二次、三次予防を説明できる</li> </ul>
2	口腔と健康	1) 歯科疾患の予防	
3		2) 口腔機能 歯・歯周組織・口腔粘膜・舌・顎関節・唾液腺 咀嚼・嚥下・発音・味覚	
4	歯口の発育と歯科疾患等に伴う変化	1) 歯の形成                      2) 歯の萌出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔機能を説明できる</li> <li>・口腔機能の保持増進を学ぶ</li> <li>・歯の形成、萌出、交換を説明できる</li> <li>★1、2、3、4回の小テスト</li> </ul>
5	口腔環境	3) 歯の交換	
6	歯・口腔の不潔	1) 口腔の健康と全身の健康 唾液の作用・ペリクルの形成・エナメル質の成熟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・唾の作用を説明できる</li> <li>・エナメル質の成熟を説明できる</li> <li>・歯の付着物、沈着物を理解する</li> <li>・歯石の特徴を説明できる</li> <li>・歯磨剤の組成を説明できる</li> <li>★5、6、7回の小テスト</li> </ul>
7	口腔清掃	1) プラーク                      2) 歯石	
8	歯磨剤・洗口剤	3) 着色性沈着物              4) 舌苔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齲蝕の発生要因を説明できる</li> <li>・齲蝕の発生機序を説明できる</li> <li>・脱灰、再石灰化を説明できる</li> <li>・齲蝕活動性を説明できる</li> <li>・プラークコントロールを説明できる</li> <li>・生活習慣の改善を理解する</li> <li>・フッ化物の毒性を説明できる</li> <li>・齲蝕予防メカニズムを説明できる</li> <li>・フッ化物歯面塗布を説明できる</li> <li>★8、9、10、11、12回の小テスト</li> </ul>
9	齲蝕の予防	3) 齲蝕の発生要因              2) 齲蝕の発生機序	
10		3) 初期齲蝕の再石灰化      4) 齲蝕活動性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齲蝕の発生要因を説明できる</li> <li>・齲蝕の発生機序を説明できる</li> <li>・脱灰、再石灰化を説明できる</li> <li>・齲蝕活動性を説明できる</li> <li>・プラークコントロールを説明できる</li> <li>・生活習慣の改善を理解する</li> <li>・フッ化物の毒性を説明できる</li> <li>・齲蝕予防メカニズムを説明できる</li> <li>・フッ化物歯面塗布を説明できる</li> <li>★8、9、10、11、12回の小テスト</li> </ul>
11	歯とフッ化物	5) 第一次予防                      6) 第二次予防	
12		7) 第三次予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フッ化物の分布              2) フッ化物の毒性</li> <li>・齲蝕予防機序</li> <li>・齲蝕予防への応用</li> <li>★8、9、10、11、12回の小テスト</li> </ul>
13	歯周疾患の予防	1) 有病状況                      2) 症状と分類	
14		3) 発生機序                      4) 歯周疾患と全身疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯周疾患の症状と分類を説明できる</li> <li>・歯周疾患発生要因を説明できる</li> <li>・全身疾患との関係を説明できる</li> <li>★13、14、15回の小テスト</li> </ul>
15	口臭予防 不正咬合	1) 第一次予防                      2) 第二次予防	
		1) 口臭の分類と原因              2) 予防と処置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齲蝕予防メカニズムを説明できる</li> <li>・フッ化物歯面塗布を説明できる</li> <li>★8、9、10、11、12回の小テスト</li> </ul>
		1) 不正咬合の分類              2) 原因と予防	
[使用テキスト]			事前学習 次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
<p>・最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修</p>		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
		1) 科目終了時の最終試験の評価	: 70%
		2) 確認テスト	: 20%
		3) 出席率	: 10%

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔衛生学(後期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義・ <b>演習</b> ・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	荻野 芳(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養うために、歯、口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得し、関連する保険情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。</p> <p>【実務経験有】荻野 芳: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに歯、口腔の健康と予防に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域保健活動の方法を説明し、歯科保健活動計画を適用できる。</li> <li>2. 母子、学校、産業、成人、老人におけるそれぞれの歯科保健活動について説明できる。</li> <li>3. 歯科疾患実態調査の資料をポイントを絞って読み取ることができる。</li> <li>4. 齲蝕、歯周疾患、歯垢、歯石の指数を表にまとめ、説明できる。</li> <li>5. 歯科保健統計から歯科保健の現況を読み取り発表できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	地域口腔保健活動 基礎知識	1) 公衆歯科衛生活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の保健医療を説明できる</li> <li>・健康日本21を説明できる</li> <li>・ヘルスプロモーションを理解する</li> <li>・口腔保健の目標を説明できる</li> <li>・市町村の歯科保健業務を説明できる</li> </ul>
2		2) 健康日本21 3) 健康増進法 4) ヘルスプロモーション	
3	地域口腔保健	1) 市町村の歯科保健業務 2) 保健所の歯科保健業務	★1、2、3回の小テスト
4	母子歯科保健	1) 妊産婦歯科健康診査 2) 1歳6か月児、3歳児歯科健康診査と保健指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子歯科保健の意義を説明できる</li> <li>・乳幼児の歯科保健を説明できる</li> </ul>
5	学校歯科保健	1) 歯・口腔の保健教育 2) 健康診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校歯科保健の意義を説明できる</li> <li>・口腔の保健教育を学ぶ</li> </ul>
6	産業歯科保健	1) 職業性歯科疾患 2) 産業歯科医	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業性歯科疾患を説明できる</li> </ul>
7	成人・老人・要介護者・ 障害者歯科保健	1) 要介護者、障害者への歯科保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護者への歯科保健指導を理解する</li> </ul>
8	歯科疾患の疫学と統計	1) 齲蝕の指数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齲蝕の指数を説明できる</li> </ul>
9		2) 歯周疾患の指数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯周疾患の指数を説明できる</li> </ul>
10		3) 歯垢・歯石の指数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯垢、歯石の指数を説明できる</li> </ul>
11	歯科疾患の疫学	1) 記述疫学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述疫学について説明できる</li> <li>・分析疫学について説明できる</li> <li>・介入疫学について説明できる</li> </ul>
12		2) 分析疫学	
13		3) 介入疫学	
14		4) スクリーニング	
15	歯科統計の基礎 歯科保健統計	5) 齲蝕の疫学 歯・宿主要因、環境要因、病原要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿主、環境、病原要因と齲蝕の関係を説明できる</li> </ul>
		6) 歯周疾患の疫学 宿主要因、環境要因、病原要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿主、環境、病原要因と歯周疾患の関係を説明できる</li> </ul>
		1) 母集団と標本 2) 標本抽出法 1) 国家統計調査の種類 2) 歯科疾患実態調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>★11、12、13、14、15回の小テスト</li> </ul>
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 70% 2) 確認テスト : 20% 3) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
衛生学・公衆衛生学	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	2単位 ( 30 時間)	必 須	菊本 暁人 (実務経験有)

**[ 授 業 の 目 的 ・ ね ら い ]**

健康の意義、人間集団の特徴、生活環境に関心を持ち、健康な地域生活に必要な環境状態と地域の保健活動の仕組みを学ぶ。

**【実務経験有】**菊本 暁人:社会福祉士・保健師の資格を活かし、実務経験をもとに医療と福祉に関する法制度を学生に教授する。

**[ 授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標 ) ]**

- 1.生活を取り巻く自然・社会環境や食生活をはじめとする生活習慣が我々の健康に大きく影響している。それらの様々な要因と健康の関係を学び、地域社会や集団で活用することによって健康に生かすことができる。
- 2.「歯、口腔の機能をどのように発揮するかによって、生涯の健康を大きく左右する」という事実を、他の多くの保健医療福祉関係者に伝え、連携し、健康の保持増進に寄与できる。

**[ 授 業 の 内 容 ]**

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	総論	1)衛生学・公衆衛生学の定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生・公衆衛生とは</li> <li>・ヘルスプロモーションとノーマライゼーション</li> <li>・国勢調査、人口構造</li> <li>・人口動態統計</li> <li>・環境と健康の概念</li> <li>・O<sub>2</sub>濃度、CO濃度</li> <li>・一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物</li> <li>・おもな公害と健康障害</li> <li>・疾病、異常(健康障害)の発生要因</li> <li>・罹患率と有病率</li> <li>・特異度と陽性反応の中率</li> <li>・感染とその概念</li> <li>・感染源、感染経路、宿主の感受性</li> <li>・感染対策</li> <li>・近年の風疹、麻疹、梅毒</li> <li>・栄養所要量</li> <li>・栄養機能食品</li> <li>・身体活動指針</li> <li>・健康増進法</li> <li>・地域保健のおもな対象、法令、活動</li> <li>・母子保健統計</li> <li>・母子保健事業と母子保健施策</li> <li>・1歳6ヶ月歯科健康診査</li> <li>・3歳児歯科健康診査</li> <li>・学校保健の意義と特徴、学校における歯科保健問題</li> <li>・学校歯科健康診断の記号と基準</li> <li>・高齢者の保健対策</li> <li>・老人保健事業の概要</li> <li>・産業保健に関する法規</li> <li>・労働衛生対策</li> </ul>
2	人口	1)人口に対する統計 2)人口動態統計・国際保健	
3	環境と健康	1)環境と健康の概念 2)生活環境	
4		3)廃棄物処理 4)環境保全	
5	疫学	1)疫学とは 2)疫学の方法論 3)因果関係の判断基準	
6	感染症	1)感染と発病 2)感染の三大原因	
7		3)感染予防 4)おもな感染症の動向と予防	
8	食品と健康	1)国民の栄養と現状 2)食育と食品衛生	
9	生活習慣	1)生活習慣とは 2)健康関連行動	
10	地域保健	1)地域保健の概念、組織 2)地域保健計画・地域保健活動の進め方	
11	母子保健	1)母子保健の意義・統計 2)母性保健管理 3)小児保健管理 4)母子保健対策	
12	学校保健	1)学校保健の意義及び概要・活動と組織 2)保健組織活動・学校保健活動の推進・食育	
13	成人・老人保健	1)成人・老人保健の現状 2)成人・老人保健活動	
14	産業保健	1)産業保健の概念・職業性疾病 2)産業保健管理・産業保健活動	
15	精神保健	1)精神保健の意義・分類、心の健康と障害 2)ライフサイクルからみた精神保健・精神保健対策	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する

**[使用テキスト]**

- ・「デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学」  
医歯薬出版株式会社
- 参考文献
- ・朝日新聞、四国新聞などの記事

**[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)**

- 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%
- 2) 確認テスト : 10%

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科衛生学総論(前期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位( 15 時間)	必須	横井 敦子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生を実践して人々の健康支援を支援するものとなるために、医療人としての基本的態度について理解し、多様な科目において知識技術を習得する態度及び論理的思考法の基礎を習得する。</p> <p>【実務経験有】横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに論理的思考の基礎を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科衛生学を概説できる。</li> <li>2. 歯科衛生の実践は倫理的でなければならない理由を述べることができる。</li> <li>3. 歯科衛生業務の実践におけるコミュニケーション力の必要性を説明できる。</li> <li>4. 課題に対するレポートを書き、提出できる。</li> <li>5. チーム医療を概説できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科衛生士とは	1) 歯科衛生学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科衛生学の定義</li> <li>・健康の考え方</li> <li>・ライフステージの関わる歯科衛生活動</li> <li>・チーム医療</li> </ul>
2		2) 歯科衛生と健康	
3		3) 歯科衛生活動の対象	
4		4) 歯科衛生活動の領域	
3	歯科衛生の歴史	1) 歯科衛生の誕生と経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科衛生士憲章</li> <li>・歯科衛生士制度の誕生</li> <li>・一次予防、二次予防、三次予防</li> <li>・健康と生活を分析するモデル</li> <li>・歯科衛生士の倫理、心構え</li> </ul>
4	2) 歯科衛生士の役割と展望		
5	歯科衛生活動のための理論	1) 予防の概念	
6	2) 歯科衛生の考え方		
5	歯科衛生士と医療倫理	1) 倫理の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際歯科衛生士連盟</li> <li>・日本歯科衛生士憲章</li> <li>・歯科衛生士の動向</li> <li>・保健、医療、福祉にかかわる歯科衛生士</li> <li>・チーム医療</li> </ul>
6	2) 医の倫理と患者の権利		
7	3) 歯科衛生と倫理		
8	4) 自己決定権の尊重・インフォームドコンセント		
7	歯科衛生士の活動と組織	1) 歯科衛生活動の現状	
8		2) 歯科衛生活動の場	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本 「歯科衛生学総論」 歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版株式会社</li> <li>・「よくわかる歯科衛生過程」 医歯薬出版株式会社</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯科衛生学総論(後期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
8回	1単位(15時間)	必 須	横井 敦子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]            人々の歯科衛生ニーズに合った支援をするために、論理的に思考し、問題発見および解決することの意義を理解する。  <b>【実務経験有】</b>横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに論理的思考の基礎を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]            1. 論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる。            2. 歯科衛生過程の全体像がイメージでき、概要を説明できる。            3. 歯科衛生過程の構成要素と書面化について知り、相互に説明できる。            4. グループワークの症例演習で積極的に発言し、グループで発表することができる。</p>			
[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	歯科衛生活動のための理論	1) 予防の概念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次予防、二次予防、三次予防</li> <li>・健康と生活を分析するモデル</li> <li>・保健行動</li> <li>・ヒューマンニーズ理論</li> <li>・歯科衛生アセスメント</li> <li>・情報収集、情報処理</li> <li>・歯科衛生診断</li> <li>・歯科衛生計画立案</li> <li>・歯科衛生介入・評価</li> <li>・書面化</li> <li>・歯科衛生士法</li> <li>・歯科衛生士の法的性格</li> </ul>
2		2) 歯科衛生の考え方	
3		3) 科学的思考	
4		4) 歯科衛生活動の領域	
5	歯科衛生過程	1) 歯科衛生過程とは ★グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメント</li> </ul>
6		2) 歯科衛生課程活用の利点	
7		3) 歯科衛生過程の流れ ★グループで症例演習	
8	海外における歯科衛生士	1) 歯科衛生士と歯科衛生士法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国、北欧</li> </ul>
9		2) 歯科衛生士の役割と展望	
10		3) 関連法規	
11	歯科衛生士法と 歯科衛生業務	4) 安全管理	
12		1) 海外の歯科衛生士のあゆみ	
13		2) 海外における歯科衛生士の現状	
14		3) 社会におけるニーズと今後	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」                歯科衛生士教育協議会編集                医歯薬出版株式会社</li> <li>・「よくわかる歯科衛生過程」                医歯薬出版株式会社</li> </ul>		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯科臨床概論	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
8回	1単位( 15 時間)	必 須	池田 優佳 (実務経験有)
<p>[ 授 業 の 目 的 ・ ね ら い ]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類・病態・診断法および治療法を理解する。</p> <p><b>【実務経験有】</b>池田 優佳: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに学生がイメージしやすいように授業を展開する。</p> <p>[ 授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標) ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯の硬組織疾患の種類と処置法を説明できる。</li> <li>2. 歯髄の保存療法、除去療法を説明できる。</li> <li>3. 歯科補綴治療の流れを説明できる。</li> </ol>			
[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	歯科医療、歯科患者	1) 医の倫理とインフォームドコンセント 2) 歯科医療の特異性	・ 人の尊厳・人権・個人情報の尊重 ・ 歯科医療の特徴、医療に携わる人
2	歯科疾患の概要	1) 歯科疾患の種類	
3	歯科診療所	1) 歯科医療の行われる場	・ 患者中心の医療、患者の自己決定権の尊重
4	歯科診療のながれの概要	1) 歯科診療のながれ 2) 救急処置	・ 主な歯科疾患と異常 ・ 医療事故の防止
5	歯科保存治療の概要	1) 歯内療法	・ 硬組織に対する治療法
6	歯周疾患	1) 歯周疾患について	
7	歯科補綴治療の概要	1) クラウン、ブリッジ、有床義歯治療のながれ	・ 審美、機能の回復
7	小児歯科	1) 小児歯科	・ 小児の患者への対応
7	矯正歯科治療の概要	1) 矯正歯科治療とは	
8	口腔外科治療の概要	1) 口腔外科とは	★理解度確認小テスト
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・「歯科衛生士のための歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会 編集 医歯薬出版株式会社		1) 課題・レポート : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯周病予防法(前期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	横井 敦子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科予防処置についての専門知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解するために概要について学ぶ。歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。</p> <p><b>【実務経験有】</b>横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科予防処置の法的位置づけについて何も見ずに説明できる。</li> <li>2. 正常な歯・歯周組織と口腔についての模式図に名称が書ける。</li> <li>3. 歯石、プラークの形成過程と成分について説明できる。</li> <li>4. 歯石除去に用いられる器材が列挙でき、用途を説明できる。</li> <li>5. 歯周病における検査の種類を列挙できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科予防処置の概要	1) 歯科予防処置の概要	・ 歯科予防処置とは
2	歯周病予防処置の基礎知識1	2) 歯科衛生過程とは	・ 予防的歯石除去法とう蝕予防処置
3		1) 歯科予防処置の種類	
4		2) 正常な歯周組織とは	
5	歯周病予防処置の基礎知識2	1) 健康な口腔とは	・ 歯周組織の正常像 ・ 正常な歯肉の遊離縁下 ・ 健康な口腔の模式図
6		2) 口腔の機能	
7	歯周病予防処置の基礎知識3	1) 口腔内の付着物と沈着物	★まとめ小テスト
8		2) プラークとは	
9		3) バイオフィルムとは	
10	歯周病予防処置の基礎知識4	1) 歯石とは	・ 付着物と沈着物 ・ 歯肉縁上プラークと歯肉縁下プラーク ・ プラークの成分と分類 ・ 歯肉縁上歯石と歯肉縁下歯石 ・ 歯石の成分と分類
11		1) 歯周診査用器材の種類	
12		2) マネキン上での演習	
13	歯周病検査	3) 正しい姿勢	・ 指先の訓練 ・ ファントムの取り扱い ・ 器具の把持 ・ 手用スクレーパーの構成と種類 ・ ポケットの分類 ・ ミラーテクニック ★実技チェック
14		1) 歯周病とは	・ ポケットの分類 ・ 歯肉炎と歯周炎
15		1) 歯周病検査の種類	・ 歯周細菌の種類と検体
		2) 検体を用いた検査	
		3) 情報収集と活用法	・ データの持つ意味と活用方法
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シラバス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯周病予防法(後期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
30回	2単位( 60 時間)	必須	北原 恵子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。</p> <p><b>【実務経験有】</b>北原 恵子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科衛生過程の情報収集とその目的および内容が言える。</li> <li>2. 歯周検査用器具が列举できる。</li> <li>3. 正しい姿勢とポジションで器具の操作ができる。</li> <li>4. 歯石除去に使用する器具をファントム(マネキン)で正しく操作できる。</li> <li>5. 歯面研磨に使用する器具が列举できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科衛生過程の進め方		<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科衛生過程の概要</li> <li>★植立模型作成</li> </ul>
2		1) 医療面接	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイング</li> </ul>
3		2) アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCRについて</li> </ul>
4		3) 情報収集の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>★マネキン実習 (口腔内観察)</li> <li>・PCR指数</li> <li>・エキスポローラーの種類</li> <li>・エキスポローラー操作</li> </ul>
5	スクレーリングに必要な器具	1) 歯周診査の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミラーテクニックを使ったエキスポローリング</li> </ul>
6		2) 歯周診査器材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロービングの意義</li> <li>・プロービングの使用目的と種類</li> </ul>
7		2) 手用スクレーラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロービングで得られる情報</li> </ul>
8	基礎実習	1) シックルスクレーラーの把持と操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シックルスクレーラーの形態</li> <li>・シックルスクレーラーの正しい把持</li> </ul>
9	基礎実習		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4原則</li> <li>・固定</li> </ul>
10	基礎実習		<ul style="list-style-type: none"> <li>★机上実習</li> <li>・シックルスクレーラーの基本操作</li> </ul>
11	基礎実習	(植立模型使用したマニキュア除去)	
12	基礎実習	1) プロービングテクニック	
13	基礎実習		<ul style="list-style-type: none"> <li>★机上実習</li> <li>・プローブの把持と正しい操作方法</li> <li>・プロービングの技術を習得する</li> </ul>
14	基礎実習	1) プロービングテクニック、エキスポローリング、ミラーテクニック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジション</li> <li>・ミラーテクニックを使ったプロービング</li> </ul>
15	基礎実習		<ul style="list-style-type: none"> <li>★マネキン実習</li> </ul>
			次のページに続く
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本</li> <li>「歯科予防処置論・歯科保健指導論」</li> <li>全国歯科衛生士教育協議会監修</li> <li>医歯薬出版株式会社</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	



## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16	偶発事故	1) 偶発事故の予防と対策	・バイタルサイン ・医療人としての心構え ・患者におこりやすい事故 ・術者に起こりやすい事故
17			・固定と安全な操作
18	基礎実習	1) シックルスケーラーの操作法      ★マネキン実習	・固定
19			・ポジションと姿勢
20			★実技チェック
21		1) シックルスケーラーの操作 (上顎前歯部)	
22		2) シックルスケーラーの操作 (下顎前歯部)	★実技チェック
23			
24		3) シックルスケーラーの操作 (右側臼歯部)	★実技チェック
25			
26		4) シックルスケーラーの操作 (左側臼歯部)	★実技チェック
27			
28	歯面研磨	1) 基礎知識 歯面研磨に用いられる器具と材料	・PMTCと歯面研磨 ・歯面清掃器 ・歯科器械の取り扱い
29		2) 基本操作	
30		★マネキン実習	・口腔内洗浄

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
う蝕予防法(前期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位( 30 時間)	必須	白川 みずえ (実務経験有)

**[ 授 業 の 目 的 ・ ね ら い ]**

う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために専門的知識、技術および態度を習得する。

**【実務経験有】**白川 みずえ: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における齲蝕予防の知識や技術を学生へ教授する。

**[ 授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標) ]**

1. う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法と項目を挙げ説明できる。
2. う蝕活動試験の目的と種類をまとめ、グループで発表することができる。
3. う蝕活動性試験を相互で実施し結果を評価することができる。
4. 小窩裂溝填塞の術式を把握し、実習で実施することができる
5. う蝕予防処置におけるメンテナンスの目的を説明できる。

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	齲蝕とは	1) 齲蝕とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カイスの3つの輪、ニューバーンの4つの輪</li> <li>・意義・具備すべき条件・使用目的</li> <li>・宿主因子の評価方法</li> <li>・口腔環境因子の評価方法</li> <li>・RDテスト、ミューカウント、Dentocult-SM</li> <li>・オーラルテスターミュータンス</li> <li>・Dentocult-LB、カリオスタット、唾液分泌</li> <li>・グルコースクリアランステスト、緩衝能</li> </ul>
2	齲蝕の原因	2) 齲蝕の分類	
3	齲蝕予防処置法	1) 口腔細菌・発酵性糖質・宿主と歯 2) 齲蝕の病原論	
4	齲蝕活動性試験	1) 齲蝕予防処置法の種類	
5		1) 齲蝕活動性試験とは	
6		2) 齲蝕活動性試験の意義・条件・目的	
7		3) 齲蝕発病因子の評価方法の種類と特徴	
8	カリエスリスク判定	4) 齲蝕活動性試験の実際	
9	齲蝕予防計画	1) 評価結果の判定と分析 2) 齲蝕リスクの判定	
10		1) リスクに合わせた計画	
11	齲蝕予防	グループワーク	
12	小窩裂溝填塞	1) 齲蝕予防処置法の種類 2) 予防処置法応用	
13		1) 術式 ・ラバーダム防湿	
14		2) 光重合型小窩裂溝填塞マネキン実習	
15	まとめ	3) 化学重合型小窩裂溝填塞マネキン実習	
			<b>事前学習</b>
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する

**[使用テキスト]**

- ・最新歯科衛生士教本
- 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
- 全国歯科衛生士教育協議会監修
- 医歯薬出版株式会社

**[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)**

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1) 科目終了時の最終試験の評価 | : 90% |
| 2) 出席率           | : 10% |

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
う蝕予防法(後期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	白川 みずえ (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために専門的知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】白川 みずえ: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における齲蝕予防の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各フッ化物応用の予防について使用薬剤の種類と濃度およびその取扱い方法をグループで発表できる。</li> <li>フッ化物の毒性について理解し悪心・嘔吐発生フッ化物溶液量の算出法ができる。</li> <li>フッ化物ゲル(ゼリー)局所応用法の術式を説明し、実施することができる。</li> <li>齲蝕予防処置の種類と所要条件・特徴・適応症について調べ、グループで発表できる。</li> <li>フッ化物集団応用の術式手順や注意事項を習得し、実践することができる。</li> <li>フッ素洗口について患者に対しての説明実習を行い、実施できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	フッ化物の基礎知識	1)フッ化物とは 2)日本人のフッ化物摂取量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フッ化物の代謝の概要</li> <li>・急性中毒、慢性中毒</li> <li>・悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出</li> <li>・綿球・綿棒塗布法、トレー法、イオン導入法 歯ブラシ法</li> <li>・2%フッ化ナトリウム溶液</li> <li>・リン酸酸性フッ化ナトリウム溶液</li> <li>★確認テスト</li> </ul>
2		3)フッ化物の代謝	
3		4)フッ化物の毒性	
4		5)フッ素の中毒量	
5	齲蝕とフッ素	6)フッ化物応用と齲蝕予防処置法 1)フッ素の応用	
6	フッ化物歯面塗布法	1)フッ化物歯面塗布法の種類	
7		2)効果的な塗布の時期	
8	歯面塗布相互実習	3)使用製材	
9		4)フッ化物溶液の保管と使用量の確認	
10	フッ化物洗口法	1)術式	
11		2)綿球法相互実習	
12	鍍銀法・フッ化ジアンミン銀	3)トレー法相互実習	
13		4)塗布後の注意	
14	齲蝕予防処置集団応	1)フッ化物洗口法に使われるフッ化物の種類	
15	まとめ	2)対象年齢	
		3)洗口回数と洗口液のフッ化ナトリウム濃度	
		4)方法	
		1)効果	
		2)作用機序	
		3)フッ化ジアンミン銀塗布実習	
		4)手指および布への着色・脱色実習	
		1)集団応用の基礎知識	
		2)集団応用実施例	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本</li> <li>「歯科予防処置論・歯科保健指導論」</li> <li>全国歯科衛生士教育協議会監修</li> <li>医歯薬出版株式会社</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導論(前期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	坪田 ゆかり(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。特に、歯科保健指導についての専門知識、技術および態度を習得する目的と意義を理解するために、その概要を学ぶ。</p> <p>【実務経験有】坪田 ゆかり: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科保健指導について概要を説明できる。</li> <li>2. 歯ブラシ・歯磨剤・口腔清掃法についての基礎知識と技術を学び、実習で100%磨きを達成できる。</li> <li>3. 各ブラッシング法について学んだ後、教員に対して実技チェックとして指示したブラッシングを模型上ですべて行うことができる。</li> <li>4. 歯科衛生教育活動として、シナリオ・媒体づくりに積極的に取り組み、グループで小集団保健指導を実施できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科保健指導実施のための基礎知識	1) 歯科保健指導とは	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」P33～・P229～ ・ 歯科専門知識の修得 ・ 行動変容に関連する理論 ・ 行動変容を促す理論の実態
2		2) 行動変容の要素とそのステップ	
3	食生活指導(栄養指導)の基礎	1) 食生活および食習慣の把握	・ 食事バランスガイド  ・ Keyesの3つの輪、Newbrunの4つの輪
4		2) 食品と齲蝕誘発性	
5		3) 咀嚼と食品	
6	食生活指導(栄養指導)の進め方	1) 歯科における食生活指導(栄養指導)の重要	・ 口腔機能の発達過程 ・ シュガーコントロール
7		2) 食生活把握法	
8	喫煙者に対する指導	1) 喫煙状況のアセスメント	・ ファーガストローム・ニコチン依存度テスト
9		2) 禁煙ステージのアセスメントと禁煙支援のポイント	
10	口腔清掃方法	1) 口腔清掃自習法	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」P205～  ★100%磨き実施 ・ 歯ブラシ ・ 歯垢染色剤 ・ 歯磨剤 ・ 洗口剤 ・ 水平法、垂直法、スクラッピング法 ・ 1歯ずつの縦磨き法、バス法 ・ フォーンズ法、ローリング法、スティルマン法 ・ チャーターズ法 ・ デンタルフロス ・ 歯間ブラシ ・ タフトブラシ、スポンジブラシ、舌ブラシ ・ 義歯ブラシ
11		2) ブラッシング	
12		3) ブラッシング	
13		4) ブラッシング法	
14		5) ブラッシング法	
15		6) その他の清掃方法	
16		7) その他の清掃方法	
17	歯ブラシセット作成		事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」</li> <li>・ 「歯で泣く人笑う人」</li> <li>・ 歯科口腔保健の推進に向けてライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導論(後期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	坪田 ゆかり (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1年次前期で学んだ歯科保健指導の基礎知識を生かし、ライフステージにおける乳幼児から高齢者まで、全身および口腔の健康の維持増進のために口腔ケアの果たす役割を理解し、実習を通して実践力を身につける。</p> <p>【実務経験有】坪田 ゆかり: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各ブラッシング法について学んだ後、教員に対して実技チェックとして指示したブラッシングを模型上ですべて行うことができる。</li> <li>2. 対象者の状況の把握のために必要なことは何か言える。</li> <li>3. 対象別の保健指導の基礎を身につけるために、各ライフステージについて説明できる。</li> <li>4. 補助的清掃用具を他者に指導しながら、説明できる。</li> <li>5. グループで協力し、媒体作りに積極的に取り組み90%完成させる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	ライフステージにおける 歯科衛生介入	1)妊産婦期	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」P240～ ・妊娠期、授乳期、出産前後の女性 ・小児の運動機能、情緒の発達 ・離乳 ・健やか親子21
2		2)新生児期・乳児期	
3		3)幼児期	
4		4)学齢期	
5		5)青年期	
6		6)成人期	
7		7)老年期	
8		8)要介護高齢者・障害者	
9	小集団指導法	1)話の組み立ての基本	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」P329～
10		2)媒体についての基礎知識	
11		3)保育園・小学校を対象とした集団歯科保健指導	
12		4)シナリオ作成	
13		5)伝達技術(プレゼンテーション)	
14		6)前準備・打ち合わせ	
15		7)指導計画表作成	
16	媒体作製		
17	発表	1)計画、実施、評価	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版株式会社</li> <li>・歯科口腔保健の推進に向けてライフステージに 応じた歯科保健指導ハンドブック</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導論(後期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	横井敦子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生教育活動の場で指導するために必要な専門知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学生の対象学年を把握し、ライフステージに合わせたシナリオを作成することができる。</li> <li>2. シナリオに合った媒体作りにグループで取り組むことができる。</li> <li>3. グループ内で計画を立て、実行し決められた完成期日を守る。</li> <li>4. 準備、媒体保管などグループで協力し、媒体を丁寧に扱うことができる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科衛生教育活動	1) 健康教育の概要	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」P329～ ・PDCAサイクル ・歯の健康力 ・指導案 ・教育媒体
2		2) 健康教育の進め方	
3		3) 学校保健(小学校)における歯科保健指導	
4		4) シナリオ作成	
5		5) 媒体作成	
6		6) 媒体作成	
7		7) 媒体作成	
8		8) 媒体作成	
9		9) 媒体作成	
10		10) 媒体作成	
11		11) 学校歯科医、養護教諭との連携	
12		12) シナリオ、教育計画の見直し	
13		13) ワークシートの作成	
14		14) 指導後評価	
15		15) 自己評価	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版株式会社 ・歯科口腔保健の推進に向けてライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック		1) 実習・実技評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科診療補助論(前期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	白川 みずえ(実務経験有)

**[授業の目的・ねらい]**

さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する、基礎的知識、技術および態度を習得する。専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術、態度を身につける。

**【実務経験有】**白川 みずえ: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。

**[授業修了時の達成課題(行動目標)]**

1. 歯科衛生士法における歯科診療補助の位置づけが説明できる。
2. 共同動作の基本を理解し、術者と補助者の位置と姿勢について説明できる。
3. スタンダードプレコーション、バイオハザードマークについて説明できる。
4. 歯科用ユニットの構造と機能について説明できる。

**[授業の内容]**

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科診療補助の概念	1) 診療の補助とは 2) 診療の補助の範囲の法的な変化	・歯科衛生士法 ・保健師助産師看護師法
2	医療安全と感染予防	1) 医療安全 2) 歯科診療での補助業務	・インシデント、アクシデント
3		3) 医療法と医療安全対策 4) 感染予防	・フローチャート
4	歯科医療における感染予防対策	1) 環境感染予防対策 2) 感染事故時の対応	・スタンダードプレコーション
5	手指衛生	1) 手指衛生の分類 2) 感染を予防するための基本的手法	・手指消毒
6	グローブ装着・着脱の手順	1) グローブ、マスクの付け方、外し方	・ラテックスアレルギー
7		2) プラスチックエプロンの付け方、外し方	確認テスト
8			確認テスト
9	滅菌と消毒	1) 滅菌・消毒・洗浄の定義 2) 滅菌法・消毒法	・滅菌・消毒・洗浄 ・消毒剤の用途と使用濃度
10		3) 歯科用器材の滅菌・消毒と管理	・消毒水準分類
11		4) 医療廃棄物の取り扱い	・感染リスク ・産業廃棄物、一般廃棄物
12	歯科診療における基礎知識	1) 歯科診療室の構造と設備	
13		2) 歯科用チェアユニット	・歯科用ユニットの取り扱い
14			確認テスト
15		3) 薬品・歯科材料の管理	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する

**[使用テキスト]**

- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科機器」
- 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社

**[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)**

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1) 科目終了時の最終試験の評価 | : 90% |
| 2) 出席率           | : 10% |

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態	
歯科診療補助論(前期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習	
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者	
15回	1単位(30 時間)	必 須	白川 みずえ (実務経験有)	
<p>[ 授 業 の 目 的 ・ ね ら い ]</p> <p>さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する、基礎的知識、技術および態度を習得する。この科目では専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術、態度を身につけ</p> <p><b>【実務経験有】</b>白川 みずえ: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[ 授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標) ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 共同動作の概念を述べることができる。</li> <li>2. フォーハンドシステムによる器具の受け渡しができる。</li> <li>3. 補助者および術者としてのバキュームテクニック、スリーウェイシリンジテクニックができる。</li> <li>4. ピンセットでロールワッテ、綿球が指定の時間内で作成できる。</li> <li>5. 歯科用石膏の練和と管理を実施できる。</li> </ol>				
[ 授 業 の 内 容 ]				
1	歯科診療所における受診の流れ	1) 歯科診療所における患者対応	確認テスト	
2		2) 患者誘導		
3	共同動作	1) 共同動作の概念		
4		2) 術者・補助者・患者のポジショニング		
5		3) 診療時のライティング		
6		4) フォーハンドデンティストリー		
7		5) 器具の受け渡し		
8		6) 器具の受け渡し		
9		7) バキュームテクニック		
10		8) スリーウェイシリンジテクニック		
11	綿球・ロールワッテ作成	1) ロールワッテ・綿球作製実習		確認テスト
12	歯科用石膏の基礎知識	1) 歯科用石膏の基礎知識		ISO、JISの分類 混水比 研究用模型、作業用模型  管理方法
13				
14		2) 歯科用石膏の練和		
15		3) 歯科用石膏の取り扱い(実習・石膏棒作成)		確認テスト
			事前学習	
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版</li> <li>・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科材料」</li> </ul> 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%		



## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科診療補助論(後期)	歯科衛生学科/1年次	2019年度/後期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
30回	2単位 (60時間)	必須	白川 みずえ (実務経験有)

**[授業の目的・ねらい]**

歯科診療に対応するために歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および、標準的な使用法を習得する。

**【実務経験有】**白川 みずえ: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。

**[授業修了時の達成課題(行動目標)]**

1. 合着材、接着材の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。
2. 成形歯冠修復材の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。
3. 合成ゴム質印象材などの種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。
4. 仮封材、歯肉排除用薬剤の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。
5. 相互実習において、患者に配慮し、印象採得し、スタディモデルを作製することができる。

**[授業の内容]**

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科材料の基礎知識	1) 歯科材料の基礎知識	
2	合着材および接着材	1) 基礎知識	・グラスアイオノマーセメント ・グラスアイオノマーセメント
3		2) グラスアイオノマーセメントの取り扱い	・カルボキシレートセメント
4		3) カルボキシレートセメントの取り扱い レジン添加型グラシアイオノマーセメント	
5		4) リン酸亜鉛セメント	
6		5) 接着性レジンセメントの取り扱い	・リン酸亜鉛セメント ・接着性レジンセメント
7	成形歯冠修復材	1) 基礎知識	★理解度確認小テスト
8	仮封材	2) 成形歯冠修復材の種類	
9	ワックス	1) 基礎知識	・テンポラリーストップング
10		2) テンポラリーストップング、セメント系仮封材の取り扱い	・水硬性仮封材 ・仮封用軟質レジン ・サンダラックアルコール ・ワックス
11	印象材	1) 基礎知識	・寒天印象材・モデリングコンパウンド 酸化亜鉛ユージノールセメント、印象用石膏
12		2) アルジネート印象材の取り扱い	・アルジネート印象材 ・サンダラックアルコール
13	歯肉排除用薬剤 ワックス	1) 基礎知識	・薬剤添加綿糸、歯肉圧排用薬剤
14		2) 種類と用途	・ワックス
15	印象材	1) 基礎知識	・寒天印象材・モデリングコンパウンド 酸化亜鉛ユージノールセメント、印象用石膏
15		2) アルジネート印象材の取り扱い	次のページに続く

**事前学習**

次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する

**[使用テキスト]**

・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版  
・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科材料」  
全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社

**[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)**

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1) 科目終了時の最終試験の評価 | : 90% |
| 2) 出席率           | : 10% |

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16		3)アルジネート印象材の取り扱い	
17		4)アルジネート印象材の取り扱い	
18		5)シリコーンゴム印象材	
19		6)シリコーンゴム印象材	
20	アルジネート印象材による概形印象採得	1)全顎印象(マネキン)	
21		2)全顎印象(マネキン)	
22		3)全顎印象(マネキン)	
23	相互実習	1)研究用模型印象(相互実習)	
24		2)研究用模型印象(相互実習)	
25		3)研究用模型印象(相互実習)	
26		4)研究用模型印象(相互実習)	
27	模型作成	1)咬合採得歯科用石膏の注入方法	
28		2)研究用模型作成	
29		3)研究用模型作成	
30		4)研究用模型作成	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
特別活動	歯科衛生学科/1年次	2019年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	北原 恵子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1年次において、有意義に学生生活を送れるよう、行事、実習などの事前学習として時間を設ける。また、積極的に取り組む姿勢や実習における記録のスキルを養う。</p> <p>【実務経験有】北原 恵子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床実習に臨む心構えや知識を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設に実習依頼の電話をかけ、訪問予定をとることができる。</li> <li>2. 医療の現場にふさわしい身だしなみができる。</li> <li>3. 実習記録・日誌が記入できる。</li> <li>4. 実習や校外学習の意義を理解し、積極的に動くことができる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	課外活動		
2	課外活動		
3	課外活動		
4	課外活動		
5	課外活動		
6	課外活動		
7	課外活動		
8	実習の心得	1) 見学実習の意味と目的	・実習の意味と目的
9		2) 実習の心得	・実習心得
10		3) 実習における記録の意味と目的	・記録の意味
11			・実習記録
12	実習記録の記入の仕方	1) 実習評価の意味と目的 2) 実習評価表の記入の仕方	
13	事故について	1) 院内感染防止について 2) 医療事故について	・事故が起こったときの対処方法
14	実習先において	1) 患者の状態の把握について 2) 実習施設への電話のかけ方、挨拶の仕方	・電話によるアポイントのとり方、挨拶
15		3) 実習訪問時の挨拶、面接について 4) 身だしなみについて 5) 実習先での態度について	・医療人としての態度、身だしなみ
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて プリントを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
参考文献 臨地実習HAND BOOK		1) 課題・レポート 2) 出席率	: 90% : 10%